



Chitose Rotary Club

佐々木会長テーマ
“心ひとつに”

会 長 佐々木 金治郎 副会長 大西 信也 幹 事 佐藤 晴一
会長エレクト 今村 静男 会 計 酒井 宏
第2510地区ガバナー 佐々木 正丞 第7グループ・ガバナー補佐 古川 大之

～ 3月は識字率月間 ～

本日の例会 (3月31日 第40回) 移動例会

担当：職業奉仕委員会
～ヤング・ライン～

2010年～2011年度 第38回 (通算2157回) 例会報告

日時：2010年3月17日18：30～20：00
場所：ANAクラウンプラザホテル千歳
プログラム：会員卓話
担当：親睦活動委員会
司会：SAA・プログラム委員長 村田 研一

四つのテスト



職業奉仕委員長
村上 倫行

お客様紹介

国際ロータリー第2510地区第7グループガバナー補佐
古川 大之 様 (右)
長沼ロータリークラブ直前会長 望月 良典 様 (左)



会長挨拶

会長 佐々木 金治郎



今日は、今月3回目の例会となります。3月6日には長沼でIMが開催されました。古川ガバナー補佐様には大変お世話になりました。ありがとうございました。今日は、古川ガバナー補佐そして、長沼ロータリークラブ直前会長の望月様がお見えになっております。お忙しいところ、ありがとうございます。本日の例会は、千歳プロバスクラブとの合同の例会となっております。寺本会長様はじめ、皆様よろしくお願いたします。

さて、先週、未曾有の大震災がありました。本来は、今日の昼間はパークゴルフで汗を流して、夜はプロバスの皆さんと楽しい例会にしようという計画でした。しかし、あのような大震災がありまして、私たちがそのような雰囲気に入ることができないということで、今日は中止にさせていただき、夜の夜間例会だけということになってしまいました。

3月11日の震災は、支笏湖の自分の旅館にいましたが、「揺れているな」という感じがしたのですが、天井の電気は揺れているが大したことはないと思っておりました。そして、事務所のテレビをつけてみますと、目に飛び込んできたのが凄まじい津波の様子でした。そして、自分のふるさと津波にのまれた所が何カ所もありました。その時は、驚きで一杯で何も考えることができなかったのですが、何時間か経って、ふるさとそして東北地方の皆さんがあのような事態になり、涙が一杯になりました。私のふるさと、私の高校も津波に洗われたということでした。また、同級生の実家も何も無いとのことでした。自然の猛威というのは、凄いものだと思います。また、次の日は私のふるさと福島県の双葉郡双葉町そして大熊町にまたがっている東京電力福島第一発電所があのような事態となりました。実は、私のふるさとの富岡町、そして

双葉町、大熊町、そして南相馬の半分、南は広野まで、そして川内村まで、だいたい双葉郡全体にはもう誰もいないそうです。いまだに浪江町では900人の行方不明者がいるそうですが、放射能汚染があるということで、その搜索さえできていないそうです。非常に悲しい出来事です。

12日は、小樽で次年度のPETSの会合がありました。私たち今年度役員も、CLPなどについての会議などもありましたので、出席してきました。今日ここにお越しにいただいている古川ガバナー補佐も出席されていました。

今日は、本当はアルコールも入って少し楽しくということだったのですが、このような事態ですので、会員からの卓話をいただいて食事をとろうと思います。この震災について、私たちがクラブとしてどのようなタイオ言うをしたらよいかということディスカッションしてもらえたらと思います。

また、お別れの話なのですが、尾崎会員が人事異動があつて、本店にご栄転ということでお別れしなくてははいけません。尾崎会員には3年間お世話になりました。私たち今年度の役員は、尾崎会員におんぶにだっこで、特に会報について経費節減ということでご苦勞をかけました。本当にありがとうございました。どうか、新任地におかれましても健康に留意されて、頑張ってくださいと思います。

千歳プロバスクラブ会長挨拶

千歳プロバスクラブ会長 寺本 利明 様



この度の災害にあわれた方にお見舞いを申し上げますとともに、被災された方には何としても耐えて、そして鎮静化することを祈っています。

プロバスクラブは、この6月で誕生から3年となります。会員は総勢32名おり、それぞれの年度の目標を着々とこなしています。外部での例会を含めた例会の開催、また千歳市奨学基金制度への協力ということで、組織としてまた個人として協力しております。プロバスクラブでは、多種多様の職業上の経験をされた方、また在職の方を含めていろいろな知識、経験などを聞かせていただきながら、会員の交流を深めています。今後もそのような形で、会の発展に努めていきたいと思っております。

昨年の9月に全国のプロバスクラブ協議会の総会がありました。千歳からは私と幹事の小宮山さんが出席しました。今、北海道のプロバスクラブは、札幌、旭川、千歳の3クラブだけです。旭川は今年5周年ということと、北海道ブロックの代表幹事でもありますので、旭川の地で開催されました。全国では104つほどのプロバスクラブがありますが、古いところでは23年の歴史を持つクラブもあるそうです。会の構成としては、旭川のように100名を超すクラブもあれば、広島のように5名ほどのクラブもあります。平均すると25名前後というのが、実態のようです。その中で、私どもは30数名の勢力ではありますが、それなりの規模の組織と認識しております。先ほど申しま

したように、事業の内容は小さいかもしれませんが、会員相互が交流を深めて、地域に何かを残していきたいと思っております。

幹事報告

幹事 佐藤 晴一



先日の例会において、ニュージーランドでの震災の義捐金を頂きましたが、1週間も経たないうちに、今度は我が国での震災の義捐金ということで、地区から案内が来ております。後ほど回りますので、是非義捐金のご協力をお願いします。

今回の例会は、31日にヤングでの移動例会となります。また、4月に入りまして第一例会は早朝例会で清掃となっております。

会員卓話—東日本大震災への対応について

クラブ会報・広報・雑誌・IC委員長
尾崎 伊智朗



先ほど、佐々木会長や、佐藤幹事からもお話がありましたように、4月1日付の人事異動により本店企画部へ異動することになりました。千歳に勤務していたこの3年間、千歳ロータリークラブの皆さま、そして千歳プロバスクラブの皆さまには、公私共に大変お世話になりました。

ここ千歳という、北海道の中でも活気のある町で3年間仕事をいたしまして、非常に充実した3年間を過ごすことが出来ました。また、ここにおいでの皆様方をはじめ、いろいろな方と出会うことが出来て、いろいろご指導を受けて勉強になったとともに、楽しい時間を過ごすことができました。

また、千歳には家族を連れて住んでいたのですが、妻も多くの新しい友人がこの千歳で出来ました。子どもたちも、こちらに来る前は、初めての転校、転園ということもあり、多少不安だったのですが、こちらへ来てみると、これも千歳の土地柄なのでしょう、外から来た転校生でも非常に受け込みやすい雰囲気の中で、友達もたくさんできて、生き活きと生活していました。また、ロータリーのクリスマスパーティーは、子どもたちにとって大変楽しい思い出となりました。このように、千歳は私にとってもまた家族にとっても、第2の故郷になったように感じております。

今回千歳を離れるにあたり、皆さまからお別れの機会をとということで、いろいろなお話をいただきました。しかしながら、後ほど詳しくお話させていただきますが、11日に発生した東北地方での地震により現地では大変な被害が発生しており、当社も全力を挙げて、被災地の支援に努力しています。ここ千歳支社からも地震の発生した翌日未明に2名の社員が現地に向けて出発し、現地での復旧活動に当たっています。そのような中で、残っている我々といたしましても、復

旧活動に当たっている社員の後方支援活動を行うとともに、今後の支援活動に向けての準備を行っているところです。従いまして、異動までの残りの日々は、最後まで職務を全うすることを最優先にして、全ての懇親行事をお断りしている状況です。千歳ロータリークラブの皆様をはじめ、3年間お世話になりました千歳の皆さまに、最後に十分なお挨拶をできないの事を、非常に残念に思っています。中でも、大澤会員、五十嵐会員、宮本会員、浅利会員には、バンドの練習にも付き合っただき、お別れ会の場所まで用意して下さいたにも関わらず、結果的にお断りしましたことは、非常に申し訳ありませんでした。何卒、事情をご理解の上、ご容赦願いたいと思います。

さて、お話しました、震災の被災地への支援についてですが、昨日16日の時点で、東北地方へは千歳からの2名を含めた49名の社員、および69名の工事会社社員が応援に入っており、現地での配電線路の巡視および改修作業を実施しております。千歳からの2名は12日の未明に千歳を出発し、途中高速道路などを使って函館まで到着しました。まだその頃は、北海道南部にも大津波警報が発令している最中であり、海岸部を避けながら何とか函館までたどり着いたそうです。そして、フェリーの再開を待って、13日の未明に函館を出発し青森入り、その後は緊急車両のみ通行を許されていた高速道路を使って宮城県に入りました。我々の応援部隊が、工事を行っていたのは、海岸から離れた山間地であり、津波の被害は無かった所だったのですが、それでも地震による設備の被害が多数あったようです。そこで、当社の応援部隊が一部の作業を任せ、配電線路の点検を行い、補修が必要な箇所はその場で仮補修などを行ってきたそうです。このような作業を続けた結果、東北電力管内では明日18日にはほぼ停電が解消される見通しとの報道がありました。しかしながら、皆さんも報道でご覧になったように、津波により壊滅的な被害を受けたところがまだまだたくさんあり、そのような場所ではまだ工事の目途が全く立たない状態だそうです。また、こちらから千歳支社の発電機を含めて、東北地方には14台の移動発電機を持っていったのですが、現地で発電機を運転するための燃料調達に苦労していると聞いています。

また、東京電力管内にも、25名の社員、および56名の工事会社社員が応援にいらしています。そのうち、原子力技術者は福島県での避難住民への放射線計測業務に協力しています。また、その他の社員は、東京電力から要請のあった移動発電機を現地へ移送中です。

そして、本州方面での電力不足を支援するために、13日から北海道と本州を結ぶ海底ケーブルを通して、ケーブルの最大容量である60万kWの電力を本州へ送り続けています。60万kWというと大きな発電所1基分くらいの容量にあたります。この電力融通に関しまして、ここ数日、お客さまから、本州へ電力を送るために北海道でも節電をする必要があるのかというお問い合わせが増えていています。現在でも、北海道からは本州とを結ぶケーブルの容量の上限である60万kWを送っていますので、皆様に節電していただいても、残念ながら本州へ送る電気の量が増えるという

ことにはなりません。ですから、今後も当社から皆さまに強制的な停電をお願いするようなことはありません。しかしながら、被災地では、暖房のための灯油や、輸送のためのガソリン、軽油などが極端に不足しています。従いまして、この北海道にいる私たちも省エネを行い、燃料や物資が届くのを待ちわびている被災地へ回る分を少しでも増やすために、当社としてもお客さまに節電をはじめとした省エネをお願いしております。

それでは、最後になりますが、千歳ロータリークラブそして千歳プロバスクラブの益々のご発展をお祈りいたしまして、私からの最後のご挨拶とさせていただきます。3年間、どうもありがとうございました。

SAA・プログラム副委員長

宮本 伸司



今回の震災で、幸い北海道では大きな被害はありませんでしたが、東北は大変な状況となっております。都市ガスの状況ですとか、復興の状況についてお話しさせていただきたいと思います。

今回、千歳では震度4と北海道の中では一番震度が大きかったのですが、地震の直後に主要な設備を点検したのですが、異常はありませんでした。道内のガス事業者では、釧路ですとか、私どもの支店である函館では津波が来ました。函館では、駅の近くにある摩周丸の観光施設が水につかったものですから、ガスの供給を止めたのですが、これ以外には被害はありませんでした。

今回の震源となった東北、関東地区では、16のガス事業者で46万件のガスの供給がストップしました。昨日の時点でも、44万件が止まっている状況です。中でも、一番被害を受けましたのが、件数でいうと仙台市の市営都市ガスなのですが、お客様36万件弱全てが停止している状況です。

ガスの導管は、阪神淡路大震災以降、ガス事業者がポリエチレン管などに取り換えておりますので、ガスの導管の被害は過去に比べて少なくなっているのですが、今回仙台では液化天然ガスを受け入れている工場が津波で被害を受けたそうです。管自体は丈夫に作っているのですが、それ以外の計装の機会ですとか、LNGの受け入れ・出荷設備が津波で被害を受けたと聞いています。

地震の時のガスの対応ですが、ガス漏れなどが起きた時はガスを大元で止めるのですが、その後に一軒、一軒お客様を回ってガスの元栓を閉めさせていただきます。そして、ガス管や施設を直してから改めて伺って、ガス一軒、一軒開けていくという、人海戦術で行っています。今回は、大元の製造設備が被害を受けたことから、業界としての応援は日本ガス協会という業界団体を中心とした先遣隊が調査を行って復旧計画を立てていますが、人を受け入れるのもままならないような状況だと聞いています。従って、もう少し時間をおいてからだと思いますが、ガス協会からの要請に応じて各ガス事業者から派遣を出すということになると思います。しかしながら、それがいつごろになるか

はまだ分からないという状況です。

出席・資料管理委員長

沼田 常好



LPガスは災害に強いと言われて
います。ラインではなく戸別に付
いていますから、阪神・淡路大震災の
時もすぐに復旧することができま
した。ただ、今回の東日本の災害
においては、津波の被害が大きく、津
波の中でLPガスのボンベがプカプカ
浮いている光景を皆さんも見たか
と思います。ああいう状況ではいくら災害に強いと言
っても、なかなかあのような津波には勝てないのかな
と思います。私たちの業界でも、あちらに営業所や支
店を持っている問屋さんがいますので、いち早く応援
を行っているようですが、営業所なども流されている
という状況もあるそうです。

また、灯油やガソリンについては、メーカーによ
って対応が違っているようです。あるメーカーは全く機
能していない状況です。北海道で機能しているのは今
1社で、そこがフル生産している状況です。普通であ
れば、前の日に言えば次の日には各スタンドに入るの
ですが、今は2、3日待っていただきたいと言われる
のが現実です。昨日、やっと船が入ったということも
聞いていますので、状況は良くなっていくと思いま
す。ただ、日本の経済状況などにより、これまでず
っと精製能力を絞ってきたものですから、その状況から
フル生産に入るのも簡単ではないということも聞いて
います。灯油に関しても非常に厳しい状況に入りそう
です。ただ、各販売店も在庫を持っていて、それなり
の対応をしていくことになりそうですので、焦る必要は
ありませんし、買いだめなどをする必要もないと思いま
すので、安心していただきたいと思えます。

ロータリー財団・米山記念奨学副委員長

藤本 敏廣



阪神・淡路大震災に対しては、我々
の業界は全国的な組織である全国管
工事組合、そして北海道管工事組合、千
歳管工事組合という組織の要請に基づ
いて、我々が現地に入って復旧工事を
行ってきました。ただ、今回の様子
を見ますと、避難している人が灯油
が無い、食べ物が無いという状況で
す。阪神・淡路の時もそうだったの
ですが、いろいろな規制が出来て道路がふさがっている
ので、食べ物やプロパンなどは今は人が運んで行くし
かないでしょう。阪神・淡路の時は、我々は大阪に
泊って阪神地区に通っていたのですが、交通の便が非
常に悪かったです。また、今回は原発の関係もあり
ますので、規制で行けないところもあります。いろ
いろ法律はあるのですが、実際に災害を受けて人の
ためには、現地に入っている人が柔軟に指示をしてい
かななくてははいけないと思います。避難所に入っても、
亡くなる人が何人も出ていて、非常に残念に思いま

す。

これから、要請が来ると思いますが、今までとは全
然違う状況になると思います。あそこに水道を通すと
いっても、今は浄水場そのものが無くなっているよう
な状況です。奥尻にも行きましたが、今回の被害は桁
違いだと思えます。ただ、要請が来れば我々も出来る
だけ協力したいと思っています。

クラブ会報・広報・雑誌・IC副委員長

五十嵐 桂一



千歳市としての対応をお話ししたい
と思います。市営住宅については、1
6戸を開放することにしています。ま
た、雇用促進住宅を開放できるかど
うか現在調整中です。そして、まだ被災
者の受け入れに関して、児童・生徒の
学校での受け入れが可能かを調べてい
ます。今後、早い時期に千歳市でも何
名かを受け入れることになると思いま
すので、その時には皆さまのご協力をお願いしたいと思いま
す。

出席率

今 回：73.2% (3月17日=41/56、実数)
確 定：100% (3月 6日=56/56、
うちメーキャップ 0名)

ニコニコBOX

国際ロータリー第2510地区
ガバナー補佐 古川 大之 様

佐藤 秀雄 会員

古川ガバナー補佐をお迎えて。

高橋 都 会員

お久しぶりです。

福田 武男 会員

北洋はまなす会で沖縄に行っていました。

滝沢 順久 会員

久しぶりの出席です。

尾崎 伊智朗 会員

4月1日付で本店に異動することになりました。3
年間大変お世話になりました。

本日のニコニコ集計 6名 26,000円